

会 議 録

[所管課 水谷公民館]

会議の名称	令和元年度第1回水谷地区公民館運営審議会
開催日時	令和元年9月5日（木）午前10時～午前11時30分
開催場所	水谷公民館 講座室
出席者	（委員） 関根健一委員 中島秀行委員 加藤みはる委員 （事務局） 和田晋治館長 寶田一義主査
会議次第	【1 報告・連絡事項】 （1）学級講座等開催事業等に関して（主要事業） （2）施設維持管理事業に関して 【2 協議事項】 （1）今年度の協議内容について ①水谷公民館の学校支援ボランティアセンター的な役割について ②その他 【3 その他】
会議資料	・水谷公民館年間事業計画 ・「狭山市学校支援ボランティアセンター」資料

会 議 内 容

*開会

*あいさつ（館長、水谷地区公民館運営審議会委員代表）

*議題

【1 報告・連絡事項】

（1）学級講座等開催事業等に関して

主な事業について事務局から報告

- ・親子フレンドパーク、子育てサロン、お母さんのステップアップ講座実施。
- ・第43回水谷青空学校30人参加、第34回みずほ台小学校区青空学校15人参加。
- ・健康づくり講座については、ハイキングとノルディックウォーキングを実施。ノルディックウォーキングについては、定員をオーバーする申込みがあり、関心の高いことが分かった。
- ・第36回水谷文化祭を準備中。
- ・うたごえ喫茶 in 水谷は100名以上の参加。12月には、針ヶ谷コミュニティセンターにて開催予定。

委員から報告

- ・コウミンカンカフェを月1回実施。今のところ、私を中心に進めている。今

後スタッフを増やしたい。8月には、コウミンカンビアガーデンを実施。公民館のリノベーションをDIYでやりたいと考え、その周知と資金集めということで実施。売り上げとカンパで3万5千円ほど集まった。これを原資に11月から始めたい。新聞でも取り上げてもらえそうである。

事務局から補足

- ・昨年度の地域・自治シンポジウム後、KTTプロジェクトが立ち上がった。来年のシンポジウムまでに何か成果を上げたいということで、リノベーションをテーマにして進めている。
- ・コウミンカンカフェについては、ほかの公民館でも、公民館運営審議会やまちづくり協議会による開催が広がっている。

(2) 施設維持管理事業に関して

事務局から報告

- ・調理室の冷蔵庫を買い替えた。
- ・防犯カメラを駐輪場とロビーに各1台設置した。市民の方からのご意見等は特になし。30日間の映像を保存。

委員：ベランダの手すりがだいぶ傷んでいるので、リノベーションの対象になるかと考えている。

館長：来年度の予算要求に向けて、修繕の準備を進めている。市民の方の手をお借りして修繕していけるのであれば、それもよいと考えている。

【2 協議事項（意見交換）】

(1) 今年度の協議内容

①水谷公民館の学校支援ボランティアセンター的な役割について

事務局：昨年、委員から、「狭山市に学校支援ボランティアセンターという仕組みがある。公民館が学校の活動をサポートできないか」というご意見を何度かいただいている。公民館としても、館区内の学校から何かしらの要請があったときに対応できればと考えている。現在、富士見市には、生涯学習課で担当している人材バンクという制度があるので、学校の先生がご存じであれば、こうした制度を利用していただくこともできる。また、人材バンクに登録はしていないが、学校に協力をしたいという市民の方もいると思われる。戦争体験をした方に話者として小学校に派遣をしているが、それを広げた形で取り組みができないかと考えている。狭山市の制度をよくご存じの委員からご説明願いたい。

委員：例えば、技術科の木工細工の授業でお手伝いいただきたいとボランティアセンターに連絡すれば、事務局の方が登録している方に連絡をしてくれる。一切お金はもらわないということで運営されている。元々は、市民大学で学習したことを活かしたいということで始まったようである。その方たちの生きがい、やりがいにもなっている。英語や数学など、それぞれの方が得意なことを活かして活動されている。単発的な場合と継続的な場合がある。草刈りなどの作業は、学校単独で依頼している。中には、外国語ができる方に外国人生徒のサポートをしてもらうようなことはある。学校としては、支援を受けるために、ほとんど労力を使わずに済むという点がとてもよい。事務局は、学校の空き教室を利用している。事務局には、ボランティアセンターの会員が交代で待機している。印刷機など事務機器は市の提供を受けている。

事務局：学区内の学校に支援に行くのか。

委員：学区内の学校に行きたいという方もいれば、学区外の学校に行きたいという方もいる。

委員：様々なニーズに対応できるというのはよいことだと思う。

委員：富士見市としてはどうか。

事務局：富士見市としてはそこまでできていない。

委員：朝霞では、図書室に毎日そういった方がいる。派遣されてきた方が子どもたちに勉強を教えるということも行っている。富士見市は、お金がないということと65歳以下の方という制限がある。

委員：狭山市では、市としては大きな予算の支出がない事業である。

委員：保険に関してもボランティア保険で対応できている。1年が終わると学校で感謝状のようなものをお渡したりしている。みなさん、それだけでも喜んでいる。活用は、中学校より小学校の方が圧倒的に多かった。

事務局：富士見市で実施を始めた場合、どんなことを支援して欲しいか。

委員：学習支援をぜひお願いしたい。子どもにとっても教員にとってもよいことだと思う。教員より専門的な方も大勢いる。また、「個人的な相談にのらない」「学校を批判しない」「教員に意見をしない」など、そうしたことは事務局から指導されているようだ。

委員：富士見市には、人材バンクの制度があるが、登録していても学校から依頼があることはほとんどない。

委員：人材バンクで依頼すると、直接、学校が登録者と交渉することになり、その点が難しい。狭山市の場合は、ボランティアセンター事務局がそうした交渉をしてくれるので、学校の負担が少ない。

委員：館区内の学校において、モデルケースとして実施するというのが現実的なことだと思う。公民館、学校教員、審議会委員、協力していただけそうな方と視察をして、新年度から試行的に実施してみるということが考えられる。

事務局：学校のニーズをつかむことが必要である。

委員：コーディネートの部分をどうするかが大切である。

委員：学校応援団は、学習支援はしていない。

委員：狭山市の制度は、学習支援に特化している。読み聞かせしてください、図書室に来てくださいなど、学習支援以外にと広げてしまうと、学校応援団の事務局のようになってしまい、業務が多岐にわたってしまい、運営できなくなってしまうことも考えられる。

事務局：学校応援団との棲み分けが必要である。

委員：今は、高齢者の方もネットを活用している方が多いので、学級閉鎖のお知らせや授業時間の変更について、事務局からメールで一斉送信するなど、連絡が簡単にできるようになっている。

委員：この事業を進めるための検討会をつくり、意見交換をすることなどが必要ではないか。

委員：水谷小、みずほ台小、水谷東小、本郷中、水谷中で5校会という集まりがある。本郷中が事務局になっている。その集まりの場を活用することができる。

事務局：この制度を立ち上げるとした場合、学校教育課との関係はどうか。

委員：小中一貫教育の一環として、公民館と協力して学習支援の仕組みを立ち上げるという話をすればよいと思う。

委員：民間で学習支援をしている方もいる。そういう方も含めて、検討会みたいなものを実施するというのはどうか。

委員：「先生」という肩書のない大人が学校にいる方が、子どもたちも相談しやすい。友達の目があって相談室に行けない子どもたちも大勢いる。

委員：公民館には多くのサークルがあるので、活動している方に宣伝をして登録してもらおう。例えば、お裁縫が得意な方に、家庭科の授業を手伝ってもらおうということができる。

事務局：公民館の職員が事務局を担うということだと難しい部分もあるが、事務局を担う人材が市民の中にいてくれれば運営していけると思う。

委員：公民館運営審議会委員に関わった方や教員経験者などにお声掛けをして、一度集まってみてはどうか。

委員：有識者の方にも入っていただく方がよい。

委員：まちづくりという観点からは、なるべく市民の方がよいと思う。館区から始めるということであれば、最初は、少ない人数から始めてもよいと思う。最初から大きいことを考えると重くなってしまう。

事務局：コンパクトに始めて、徐々に広げていくということ考えてたい。

委員：学校と教育委員会だけだと小さいトライ・アンド・エラーができないと思うが、そこに公民館と市民が入ることによって、トライ・アンド・エラーによって判断材料を得ることができる。

委員：まずは、行ってみて見せてもらうということでしょうか。そんなに難しいことをしているわけではないということが、分かってもらえると思う。

事務局：11月下旬に審議会を開きたいと考えていたので、その視察を充てるということにしたい。

②その他

今後のスケジュールについて確認・協議

- ・11月、1月、3月に開催する。
- ・11月は、狭山市に視察研修ということにしたい。
- ・協議の結果、26日(火)または28日(木)を候補日とし、狭山市ボランティアセンターと調整して決定することとする。

【3 その他】

なし

*閉会